

## 高等学校普通科における人間力の向上を図る教育内容の改善 ～「現代社会」の授業改善を中心とした対応～

### Education Contents which Plan for Improvement of Resourcefulness in the General Course of the High School ～The Correspondence Improved with "Contemporary Society"～

金澤 昭良\* 大端 開\*\*

Akira Kanazawa Haruki Obata

#### 概要

2006年2月に、中央教育審議会「初等中等教育分科会 教育課程部会」は、「言葉や体験などの学習の重視」、「確かな学力の育成」、「社会の変化への対応」等を通して、人間力の向上を図る教育内容の改善を求めている。また、2020年11月に、中央教育審議会「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」が、高等学校の普通科の教育内容の改善・充実を図るため、普通科を3つに再編する案を示した。急速に変化する社会の中で、物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力や、問題を見いだし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル等を、生徒に育成することが、教育課程や教育内容の改善を通して普通科に求められているのである。本稿では普通科の公民科の学習における「主体的・対話的で深い学び」の具体的な事例等を紹介するとともに、育成する資質・能力にも触れながら人間力育成の在り方について考察する。

#### 1. はじめに

高等学校ではこれまで長らく普通科、専門学科、総合学科による教育が行われてきた。高等学校の普通科には高校生の73.1%<sup>(1)</sup> (2018年5月現在)が在籍しており、まさに普通科は高等学校教育の中心として機能してきた。

しかし、2020年11月に、文部科学省の中央教育審議会（以下「中教審」という。）「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」が、新時代に対応した高等学校教育の在り方として、高等学校の「普通科」を3つに再編する案を示した<sup>(2)</sup>。現行の「普通科」に加え、現代ならではの課題や地域社会の問題解決のために必要な学習を提供する学科をつくることを、設置者（都道府県や私立学校など）の判断で認めるというものである。これはかねてから普通科での教育に対する様々な批判、例えば「教育内容や授業内容が画一的になりやすい」「大学入試への対応を優先した授業が行われ、生徒自身が考えたり、話し合ったりする授業が少ない」等々に対する文部科学省なりの学校現場への強いメッセージと捉えることもできる。

一方で、2003年4月に公表された「人間力戦略研究会報告書（若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高める）」では、「人間力」を、文部科学省が近年の教育

改革の中で提唱してきた「生きる力」という理念」をさらに発展させ、具体化したものとして定義し、子どもたちの「人間力」のさらなる強化を求めている<sup>(3)</sup>。すなわち、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」を子どもたちに育成しようということである。そのためには、子どもたちの学習意欲を喚起することが大切であり、子どもを取り巻く環境や時代の変化・社会状況を教育課程に的確に反映するとともに、社会でよりよく生きるために不可欠な知識等を学習内容に含めることも必要である<sup>(3)</sup>。

本稿では、「普通科」再編を見据える中、「人間力」の向上を図るための授業の在り方を、高等学校普通科の公民科等の授業を中心に検証することとした。

#### 2. 授業に対する捉え

2006年2月に公表された中教審「初等中等教育分科会教育課程部会審議経過報告」では、人間力の向上を図る教育内容の改善として、「言葉や体験などの学習や生活の基盤づくりの重視」、「確かな学力の育成」、「子どもの社会的自立の推進」、「社会の変化への対応」を、基本的な考えとしている<sup>(4)</sup>。学校教育が授業を中心に実践されていることを踏まえれば、これらの視点を授業で大切にすることが求め

\*北海道科学大学全学共通教育部数理情報教育グループ

\*\*北海道立教育研究所研究・相談部

られる。何のために学ぶのかという目的意識を明確にするとともに、こうした視点から授業を見直してみることによってその足らざるところを補い、より充実したものに改善することが求められる。

具体的な人間力の構成要素としては、次のようなものが考えられ、教師はこのような構成要素を頭で整理し、授業に臨むことが大切である。

【主体性・自律性】

自己理解（自尊）・自己責任（自律）、健康増進、意思決定、規範意識、将来設計

【自己と他者との関係】

協調性・責任感、自己開示、人間関係形成、感性・表現

【個人と社会との関係】

責任・権利・勤労、社会・文化・自然理解、個人の自立、言語・情報活用、知識・技術活用、公共性、課題発見・解決

一方、授業の在り方については、これまでも、種々の研究が行われ、その捉え方についても報告されている。

例えば佐藤は「学びの協同体」を提唱し、実際に授業見学を行う中で授業改善や学校改善を図ることの大切さを指摘している<sup>(5)</sup>。授業を、「教科書に記載されている、一見すると生徒にとって縁遠いと思われる内容を、様々な教材を通して生徒側に引きつけることにより、生徒にとって身近な内容となるよう再編成する一連の流れ」と捉えている。

高等学校においても、授業見学等を適宜実施しつつ、人間力の向上を図る教育内容の改善と充実を、授業で実施することが大切である。

### 3. 主体的・対話的で深い学びの在り方

2016 年の中教審答申<sup>(6)</sup>では加速度的に変化し、複雑で将来を予測することが困難になることが予想されるこれからの社会に生きる子どもたちに求められる力が、次のように例示されている。

解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりし

て、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。

また、同じく中教審答申では「主体的・対話的で深い学び」の在り方について、次のように提示している<sup>(6)</sup>。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる（学び）

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域と人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める（学び）

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの仮定の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう（学び）

さて、上述した中教審答申で子どもたちに求められている力を、高等学校公民科や地理歴史科の授業の実践を通して身に付けさせるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、以下の 10 の視点を大切にしたい。

【必要な視点】

- (1) 生徒自身が「なぜ～なのだろう」、「どのように～なのだろう」などの課題を見いだしている。  
（興味・関心の高まり）
- (2) 生徒自身が課題について予測したり、仮説を立てたりしている。（授業の見通しを持たせる）
- (3) 課題を、自分の生活に関係するものとして捉えている。あるいは、自分の生活、身近な地域の様子や身近な地域の歴史を、課題把握のための素材としている。（自分と結び付ける）

- (4) 生徒自身が自らの学びを振り返り、手応えや疑問点を感じている。(振り返って次につなげる)
- (5) 様々な諸資料の調査、地域の人々への聞き取り等を通して情報を収集する。(多様な情報の収集)
- (6) 集めた情報を基に、生徒自らが思考した内容を説明、表現等で表している。(思考から表現への置き換え)
- (7) 課題解決のため、生徒一人一人が自分の考えを出し合っている。(協働による課題解決)
- (8) 自分が考えたことと、他者が考えたことの共通点や相違点に気付く。(相互の思考の比較)
- (9) 自らの思考をまとめた後に、新たな疑問や発展的な課題を考えている。(思考の継続)
- (10) 学習した知識を概念的に理解し、課題解決のための技能を身に付けることで、新たな課題解決のための方法や表現等を工夫する。(概念と技能の複合化)

また、澤井は、これからの教師に求められる能力を次のように定義した。「これからの教師が求められている指導力とは、子供の学びを軸に授業を設計(デザイン)する力、それを効果的に運営(マネジメント)する力にほかならない」<sup>(7)</sup>。

澤井氏の指摘は、今後の教育にあたる全ての教員が肝に銘じるべき重要な指摘であると考え、高等学校における、個々の生徒の人間力の向上を図る教育内容の改善と充実を図るために、教師の授業を設計し運営する力がますます必要とされているのである。

#### 4. 高等学校公民科「現代社会」等の授業実践

北海道月形高等学校は北海道空知管内月形町に位置する全日制普通科高等学校である。月形町は樺戸集治監の初代典獄(現代の刑務所長と同義)であった「月形潔」の名に由来し、町名が名付けられている。現在も月形刑務所があり、いまは廃止されたが日本最北の少年院であった月形学園も存在していた。また、樺戸集治監に収容されていた囚人による道路工事開発が北海道開拓に与えた影響は大きく、月形町ではその功績から、無縁仏になった囚人を町内の篠津山囚人墓地に埋葬し、毎年、慰霊を行っている。

さらに、月形町は2020年4月でJR札沼線が廃止され、他の地域と同様に人口減少等の課題を抱えていることも申し添える。

高等学校普通科において、生徒の人間力を向上さ

せるために、上述した北海道内でも特異な歴史を有する月形町の教育資源や外部人材等を有効に活用し、さらに社会に開かれた教育課程の視点を意識した、高校1年生で学ぶ「地理A」と高校3年生で学ぶ「現代社会」との、有機的関連を図った授業実践について取り上げる。

月形高等学校の公民科と地理歴史科の授業においては、学習過程として、次の3つの場面が一連の流れとして行われるよう配意している。

##### 【課題把握の場面】(つかむ)

- ・ 社会的事象に出会い、気付きや疑問から課題をつかむ。
- ・ 課題についての予想や仮説を立てたり、調査方法や追究方法を吟味し、今後の学習計画を立てたりすることで課題解決の見通しを持つ。

##### 【課題追究の場面】(調べる、考察する)

- ・ 観察や調査、資料の活用を通じて、個人の思考を出発点とし、そこから集団における考察、話し合い等へと昇華させ、仮説の検証を行う。
- ・ 課題について多面的、多角的に考え、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察したり、将来の社会を構想したりする。

##### 【課題解決の場面】(まとめる、振り返る)

- ・ 考察したことや構想したことをまとめる。
- ・ 自分の調べ方や学び方等を振り返り、次の学びへとつなげる。

#### 4.1 「現代社会」における「問い」を表現する授業実践例

##### (1) 目的

「現代社会」で学んだ学習内容のまとめとして、町議会議員の講話・並びに生徒による政策提言等を通じ、地方自治に関する現状を学ぶとともに、生徒による政策の検討・発表を実施した。生徒にとって最も身近な地方自治の現状等を学ぶことにより、選挙権年齢引き下げに伴う主権者としての意識を高めることがねらいである。

##### (2) 本時における問い

「自分の住んでいる町の課題は何だろう？」

##### (3) 内容

- ・ 代表生徒による町議会議員への発表(政策提言)
- ・ 発表に対する町議会議員からの講評

※なお、事前学習で個人・グループによる意見の検討や発表、交流や整理などは既に実施済み。

(4) 政策提言の内容（代表生徒の主な発表内容）

- ・ 町内を貫く幹線道路沿いに地場の特産物を活用した飲食店を作ってはどうか
- ・ 人口を増やす取組をもっと充実すべき
- ・ 積雪量の多い地域の除雪対策を充実すべき
- ・ 雇用の場をもっと増やすべき
- ・ 介護士になりやすい環境を整備すべき

(5) 生徒の振り返りシート記載内容

この授業を受講した生徒の振り返りワークシートから、特徴的な意見を以下にあげる。

- ・ 町を衰えさせるのは町民ひとり一人だと思う。大切なふるさとなので、今後もふるさとが続いて行くように自分なりに努力しようと思った。
- ・ 町民自身が意見を出すことがとても大事だと感じました。少しでも自分の地元に恩返しをしたいという気持ちが強くなりました。
- ・ 技術の発達によって、田舎に住んでいてもいろいろなことが出来る時代になった。
- ・ 自分の住んでいる町や国のことについて真剣に考え、良くしていこうと思える立派な有権者になろうと思った。
- ・ 私は議会についてあまり知らなかったのですが、今回のお話を聞いて町外とのつながりや町内の活動を知ることができたので、今後、私たちにできることをしようと思った。
- ・ (議員が) 自分で意見を考えて行動するのは楽しそうだった。

(6) まとめ

生徒たちは予想していた以上に熱心に取り組み、代表生徒の意見も立派なものであった。町議会議員に自らの意見を聞いてもらうという機会が、生徒たちの内発的動機付けになったようである。

(7) 分析

以上の生徒の振り返りワークシート記載内容を踏まえると、前述の「2. 授業に対する捉え」で指摘した人間力の3観点から、次のように生徒の変容を表すことができる。

【主体性・自立性】の観点から

- ・ 自らの主体性や自立性を、他者や社会を通じて自己認知する「メタ認知」の視点
- ・ 主体性や自立性を持った主権者として、自分が居住している市町村を見つめ直す「現状認識」の視点

【自己と他者との関係】の観点から

- ・ 様々な他者の意見を聞くことで、自らの意見がブラッシュアップされる「比較」の視点
- ・ 様々な地域に住んでいる他者の意見から、この社会が自己と多様な他者で成り立っている「多様性」の視点

【個人と社会との関係】の観点から

- ・ 個人が社会の中で単に存在しているわけではなく、個人が社会とのつながりの中で存在し続けている「持続可能性」の視点



図1 意見を述べる生徒



図2 議会議員からの施策説明・所感発表

## 4.2 「地理A」における「月形樺戸博物館」と連携した地域巡検の実施

### (1) 目的

月形町内に住んでいる生徒の入学者が減少し、町外から入学する生徒が急増している現状から、高校が存在する月形町の歴史について学び直す契機とする。

### (2) 内容（月形樺戸博物館の見学）

授業時間を連続2時間とし、月形樺戸博物館の見学、その後のワークシートによる振り返りを行う。

説明は博物館専属の学芸員の方をお願いした。学芸員の方の知識が豊富で、しかも分かりやすく説明していただいたため、生徒はもちろん、引率した教員の理解も深めることができた。

### (3) 生徒の振り返りシート記載内容

この授業を受講した生徒の振り返りワークシートから、特徴的な意見を以下にあげる。

- ・いまの北海道の基礎があるのは囚人のおかげだと分かった
- ・囚人が道路工事をさせられていたことに驚いた
- ・囚人を見る目が変わった。もちろん悪いことをして囚人になったのだらうけど、その後に道路を作るなど、北海道にとって良いことをしてくれて何故か複雑な気持ちになった
- ・わたしたちが通学路で利用しているすぐ近くに、このような立派な施設があることに驚いた

### (4) まとめ

生徒たちは真剣に授業に取り組んだ。月形町内から通学している生徒にとっては改めて歴史を振り返る契機となり、月形町外から通学して来る生徒にとっては新たな発見となった様子であった。



図3 博物館職員の話聞く生徒

### (5) 分析

以上の生徒の振り返りワークシート記載内容を踏まえると、前述の「2. 授業に対する捉え」で指摘した人間力の3観点から、次のように生徒の変容を表すことができる。

#### 【主体性・自立性】の観点から

- ・主体性や自立性を持った主権者として、自分が居住している市町村を見つめ直す「現状認識」の視点

#### 【自己と他者との関係】の観点から

- ・様々な地域に住んでいる他者の意見から、この社会が自己と多様な他者で成り立っている「多様性」の視点

#### 【個人と社会との関係】の観点から

- ・個人が社会の中で単に存在しているわけではなく、個人が社会とのつながりの中で存在し続けている「持続可能性」の視点

## 4.3 「現代社会」における地域の教育資源を活用した模擬裁判の実施

### (1) 目的

高等学校学習指導要領（2018年告示）解説公民編には、次のような記載がある。

司法参加の意義に関わる具体的な主題については、例えば、何のために刑罰が科されるのか、なぜ予め犯罪と刑罰を法律で定めておく必要があるのか、なぜ検察審査会制度があるのか、裁判に国民が参加することによってどのような意義があるのか、といった、具体的な問いを設け主題を追究したり解決したりするための題材となるものである。その際、例えば、模擬裁判など、司法の手続きを模擬的に体験することにより、裁判や法律家が果たす役割、適正な手続き、証拠や論拠に基づき公平・公正に判断することについて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。また、国民が、主権者として、司法に関心をもち、積極的に参画する責任について自覚をもつことができるようにすることが大切である<sup>(8)</sup>。

我が国で裁判員制度導入が決定した直後から、選挙以外の国民が主権の行使にかかわる重大な出来事と捉え、地域の教育資源と関連させた実践を検討し準備を進めるとともに、模擬裁判と月形刑務所見学を関連させた授業を実施した。

### (2) 内容

#### 「模擬裁判」

高校「現代社会」の教科書では、司法権の中で裁判員裁判の記載があるが、教科書によっては数行程度しか触れられず、生徒にとっては実感を持って捉えることは難しい。そこで将来、生徒自身が裁判員に選ばれる可能性があることを授業で伝え、実際に裁判を体験する重要性を話した上で、模擬裁判を実施した。生徒の中から裁判官役、弁護人役、検察官役、証人役（数名）、被告人役を募り、全て生徒自らの立候補で役を決定することができた。特に被告人役の生徒については配慮が必要であり、立候補者がいなければ教師自らが行う予定であったが、立候補してくれた生徒の気持ち



を汲み取り、授業終了後も冷やか・からかいの対象にしないよう事前に強く指導した。なお、役にあたらなかった生徒は全て裁判員役とした。

シナリオは架空のものであり、内容は架空の銀行から現金が盗まれた強盗罪の裁判とした。裁判員裁判の対象は殺人などの凶悪事件であり、強盗罪は裁判員裁判の対象とならないが、今回の実践は裁判の仕組みや流れを実際に体験することが主目的であるため、強盗罪とした。（もちろん生徒には、強盗罪は裁判員裁判の対象とならないことを事前に話している）



図4 模擬裁判の様子

#### 「月形刑務所の見学」

模擬裁判を体験した生徒に対し、実際の刑務所を見学させることとした。実際に刑務所を見学し、その空気感や矯正教育の現場を知った上で、将来、裁判員として選ばれた際は責任感を持ってその任を全うしてほしいとの思いからである。

刑務所はその性質上、見学することは通常は難しいが、授業の目的を話した上でご快諾をいただいた。

見学当日は刑務官による月形刑務所の概要説明、刑務所内の見学、受刑者の刑務作業の見学を実施した。特に受刑者の刑務作業の見学は、ガラス越しではなく、作業中の部屋に入っただけの見学だったため、生徒にとっては大きなインパクトがあった様子であった。

#### (3) 生徒の振り返りシート記載内容

この授業を受講した生徒の振り返りワークシートから、特徴的な意見を以下にあげる。

##### 「模擬裁判」

- ・ドラマで見ているのと違って、実際に人を裁くことの大変さが分かった
- ・自分の判断で刑務所に行く、行かないが決まるかと思ったら、責任を重く感じた
- ・正直、被告人が犯罪をしたのか、していないのか、どちらにも取れるので、自分は判断がつかなかった
- ・親がニュースを見て死刑にすべきだと言っていたのを聞いたことがあるが、実際に裁判員である自分の意見で被告人が死刑になるとしたら、簡単に死刑にすべきだといった発言は軽々しく出来ないと強く感じた

##### 「月形刑務所の見学」

- ・分かりやすく説明いただき、また普段は見る事が出来ない刑務所内の様子を見学でき、いい経験になった
- ・思ったよりも刑務所内はきれいでびっくりした
- ・自分が裁判員となって判断する際に、今日の経験は役に立つと思う」といったものがあった。

#### (4) 分析

以上の生徒の振り返りワークシート記載内容を踏まえると、前述の「2. 授業に対する捉え」で指摘した人間力の3観点から、次のように生徒の変容を表すことができる。なお、「模擬裁判」に該当するものには「模」を、「月形刑務所の見学」に該当するものには「刑」を記した。

##### 【主体性・自立性】の観点から

- ・自らの主体性や自立性を、他者や社会を通じて自己認知する「メタ認知」の視点 「模」「刑」
- ・主体性や自立性を持った主権者として、自分が居住している市町村を見つめ直す「現状認識」の視点「模」

##### 【自己と他者との関係】の観点から

- ・様々な他者の意見を聞くことで、自らの意見がブラ

ツシュアップされる「比較」の視点 「模」

- ・様々な地域に住んでいる他者の意見から、この社会が自己と多様な他者で成り立っている「多様性」の視点 「模」「刑」

【個人と社会との関係】の観点から

- ・個人が社会の中で単に存在しているわけではなく、個人が社会とのつながりの中で存在し続けている「持続可能性」の視点 「模」「刑」

#### 4.4 授業実践で育成される人間力に係る考察

前述の3つの授業実践について、授業を通して育成が可能な人間力の具体を次のようにまとめた(表)。予想を上回る具体的な力を認識することができ、改めて、生徒を取り巻く環境や時代の変化・社会状況を教育内容に的確に反映することの大切さを痛感した。

表 授業で育成が可能な人間力の具体

	4.1	4.2	4.3
主体性・自立性	○自己理解 ○意志決定 ○規範意識 ○将来設計 ○自己責任	○規範意識 ○将来設計	○自己理解 ○意志決定 ○規範意識 ○将来設計 ○自己責任
自己と他者の関係	○協調性・責任感 ○自己開示 ○人間関係形成 ○感性・表現	○人間関係形成 ○感性・表現	○協調性・責任感 ○自己開示 ○人間関係形成 ○感性・表現
個人と社会の関係	○責任・権利・勤労 ○言語・情報活用 ○社会・文化・自然理解 ○知識・技術理解 ○公共性	○言語・情報活用 ○社会・文化・自然理解 ○公共性	○責任・権利・勤労 ○言語・情報活用 ○社会・文化・自然理解 ○知識・技術理解 ○公共性

#### 5. まとめ

「人間力戦略研究会報告書(2003年)」では、「人間力」を生徒たちに育成するためには、学習の基盤を培うことはもちろん、実生活を視野に入れて、学習の目標を持たせることが重要であると指摘している<sup>(3)</sup>。

その際、言葉や体験を重視することが大切である。さらに、生きること、働くことの尊さを実感する機会を持たせたい。社会の第一線で活躍する人々の技や生き方に触れたり、自分なりの目標に挑戦したりする体験を重ねることは、生徒の成長にとって貴重な経験となる。

「1. はじめに」でもふれたが、「教育内容や授業内容が画一的」等の高等学校普通科の課題を解決するためには、今まで以上に生徒の知的好奇心を刺激し学ぶ意欲を高めたり、知識・技能を体験的に理解させたり、自ら学び自ら考える力を高める授業作りを積極的に推進する必要がある。

また、各教科等それぞれで身に付けられた知識や技能などが相互に関連付けられ、総合的に働くようにすることも大切である。急速に変化する社会の中で、物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力や、問題を見だし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル等を、生徒に育成することが、教育課程や教育内容の改善を通して普通科に求められているのである。

知的好奇心や夢を大切にしながら、学校生活や家庭生活・社会生活全体を通じて、子どもが実体験を重ね達成感を得ていく中で、人生や生活を前向きにとらえる姿勢や目標の実現に向けて努力を重ねる態度を身に付けさせたい。

よい授業のためには、生徒との信頼関係づくりが重要である。良い授業をしても生徒との距離感が遠ければ、その授業の伝わり方は半減する。逆に生徒と信頼関係が出来ていれば、多少失敗しても生徒たちがその失敗を補ってくれる。また、生徒と先生との距離が近づきすぎると授業が成り立たないことがある。適切な楽しい授業をお互いが出来る距離感を構築することが必要である。よい授業とは、そのクラスの生徒全員がそこにいる存在意義があって成り立つものだと考える。生徒全員が活動できるような授業づくりを大切にしたい。まずは、教師が楽しみながら授業をすることが大切ではないだろうか。

本稿では、高等学校普通科の公民科の授業を中心に「人間力」の育成の在り方について述べてきたが、各学校では、異校種間の接続を図るとともに、教育課程の編成・実施に当たっては各教科等の特質を生かしつつ、教科等横断的な視点を踏まえ、「人間力」の育成を踏まえた学習をこれまで以上に重視することが大切である。

## 参考文献

- (1) 文部科学省高等学校学科別生徒数・学校数,  
2018,  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/shinkou/genjyo/021201.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/genjyo/021201.htm).
- (2) 中央教育審議会初等中等教育分科会, 新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ (審議まとめ), pp. 32-45, 2020,  
[https://www.mext.go.jp/content/20201117-mxt\\_koukou02-000011002\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201117-mxt_koukou02-000011002_01.pdf).
- (3) 内閣府人間力戦略研究会, 人間力戦略研究会報告書, pp. 3-5, 2003,  
<https://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningennryoku/0410houkoku.pdf>.
- (4) 中央教育審議会: 初等中等教育分科会教育課程部会審議経過報告, pp. 12-23, 2006,  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2014/04/02/1212706\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2014/04/02/1212706_001.pdf).
- (5) 佐藤学: 教育方法学, 岩波書店, pp. 154-157, 2016.
- (6) 中央教育審議会: 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について, pp. 10-11, pp. 47-50, 2016,  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf).
- (7) 澤井陽介: 授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善, 東洋館出版社, pp. 17-32, 2017.
- (8) 文部科学省: 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説公民編, 東洋館出版社, pp. 59-60, 2018.